

4. 植栽計画

4. 植栽計画

(1) 基本的な考え方

①計画対象地を特徴づける植栽・景観を保全・継承する。

●三つのゾーンの特徴を保全・継承する。

計画対象地には、浅茅ヶ原北斜面(参道景観ゾーン)、浅茅ヶ原の尾根付近(尾根ゾーン)、鷺池周辺(谷ゾーン)の三つのゾーンがあり、このゾーンを特徴づける植栽・景観を保全・継承する。

浅茅ヶ原北斜面(参道景観ゾーン)の特徴

- ・春日大社の旧境内地の植生・景観を継承している。
- ・春日大社と一体となり、参道景観を形成している。
- ・イチイガシとスギを主にした大径木の樹林。

浅茅ヶ原の尾根付近(尾根ゾーン)の特徴

- ・旧境内地の要素のイチイガシ等と新たに整備した要素の花木の両方が見られる。
- ・尾根地形を活かした多彩な花木類が見られる。
- ・円窓亭や旅館と地形や植栽が合わさった独特の景観。

鷺池周辺(谷ゾーン)の特徴

- ・率川の自然な植栽・景観と連続性・一体性がある。
- ・水面や芝地の拡がり花木類が見られる。
- ・外部の御蓋山、高円山、奈良ホテル等に向けた眺望景観

●景観や利用の連続性や一体性に配慮する

計画対象地は、各ゾーン及び周辺地の景観や利用の連続性や一体性があり、これが特徴となっている。上述した各ゾーンの特徴を保全・継承しつつ、各ゾーン相互及び周辺地との連続性や一体性に配慮する。

参考：春日大社境内原生林－スギとイチイガシについて

小清水卓二「(前略)ここは土地が浅い。浅い根が張っているだけなので風ですぐ倒れやすいんですが、古人の知恵でしようかね、台風が来る方向、風が来る方向には、風に対して一番抵抗力の高いイチイガシをちゃんとまぶしてあったんですよ。ですから、イチイガシが厳然としている場合にはね、大木になってもスギが倒れない。ところが、イチイガシが老木になって倒れてしまうとスギが枯れちゃうんですよ。其れを知らないで、ただスギあったからスギを植えると言うことじゃ具合が悪い。ということで、イチイガシをうんとまぶしてスギと他の木を植えなきゃいかんのですよ。(後略)」

出典：奈良公園史 自然編92頁 昭和52年2月 座談会“春日の杜”

②健全な生育と魅力維持を図る。

●日照条件等の改善

- ・花木の日照条件や水分条件の改善を図るため、花木と高木それぞれの植栽範囲を見直し、良好な生育環境を整える。
- ・花木の健全な生長や演出効果に配慮して、植栽密度の見直しを行う。

●花木等の樹種・品種の見直し

- ・ナラノヤエザクラやナラノココノエザクラなど虚弱品種の衰退が著しいことから、長寿な原種(エドヒガン、カスミザクラ等)や強健な品種(ソメイヨシノ等)への植替を行う。
- ・ナラノヤエザクラやナラノココノエザクラなどの品種は、荒池園地の芝地など良好な生育・管理条件が整ったところに限る。

●建築物周辺の配植の見直し

- ・料理旅館周辺の植栽は、景観、施設利用、管理等の諸条件に適した植栽となるように見直す。
- ・円窓亭附近は、移設後の状況にふさわしい植栽に見直す。

●特徴的な減少樹種の補植

- ・マツ類やイヌシデ、アセビなど、計画対象地を特徴づける樹種で減少しているものは、適地を選定して補植する。

③今後の植栽の変化への対応

●更なる生長・世代交代への対応

多数を占めるスギ、イチイガシ、ケヤキ、シラカシ等は良好に生長している。今後更なる生長が予測できることから、今後の景観変化や将来訪れる世代交代に備えて、適宜択伐や補植を行う。

●マツ枯れ・ナラ枯れ・台風に備えた樹林づくり

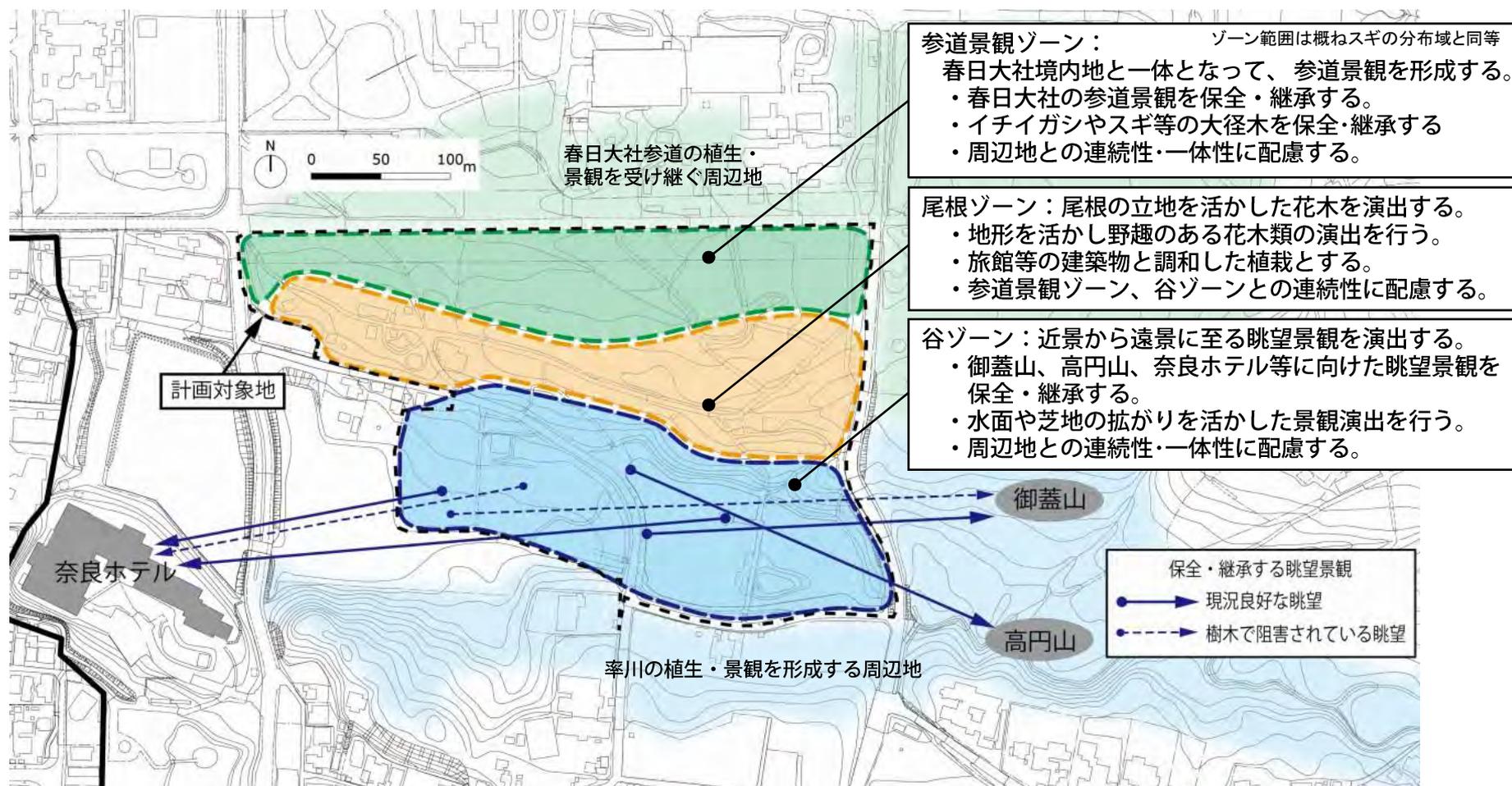
マツ枯れやナラ枯れは、大径木化や被害樹種の優占率の高さが誘因の一つと考えられることから、樹齢や樹種の多様化を図り、被害の防除、軽減に努める。また、大径木の保全・継承のため、風倒被害の軽減に配慮した配植に努める。

4. 植栽計画

(2) 計画方針

計画方針：旧境内地と整備された園地の特徴を活かしつつ植栽・景観を保全・継承する。

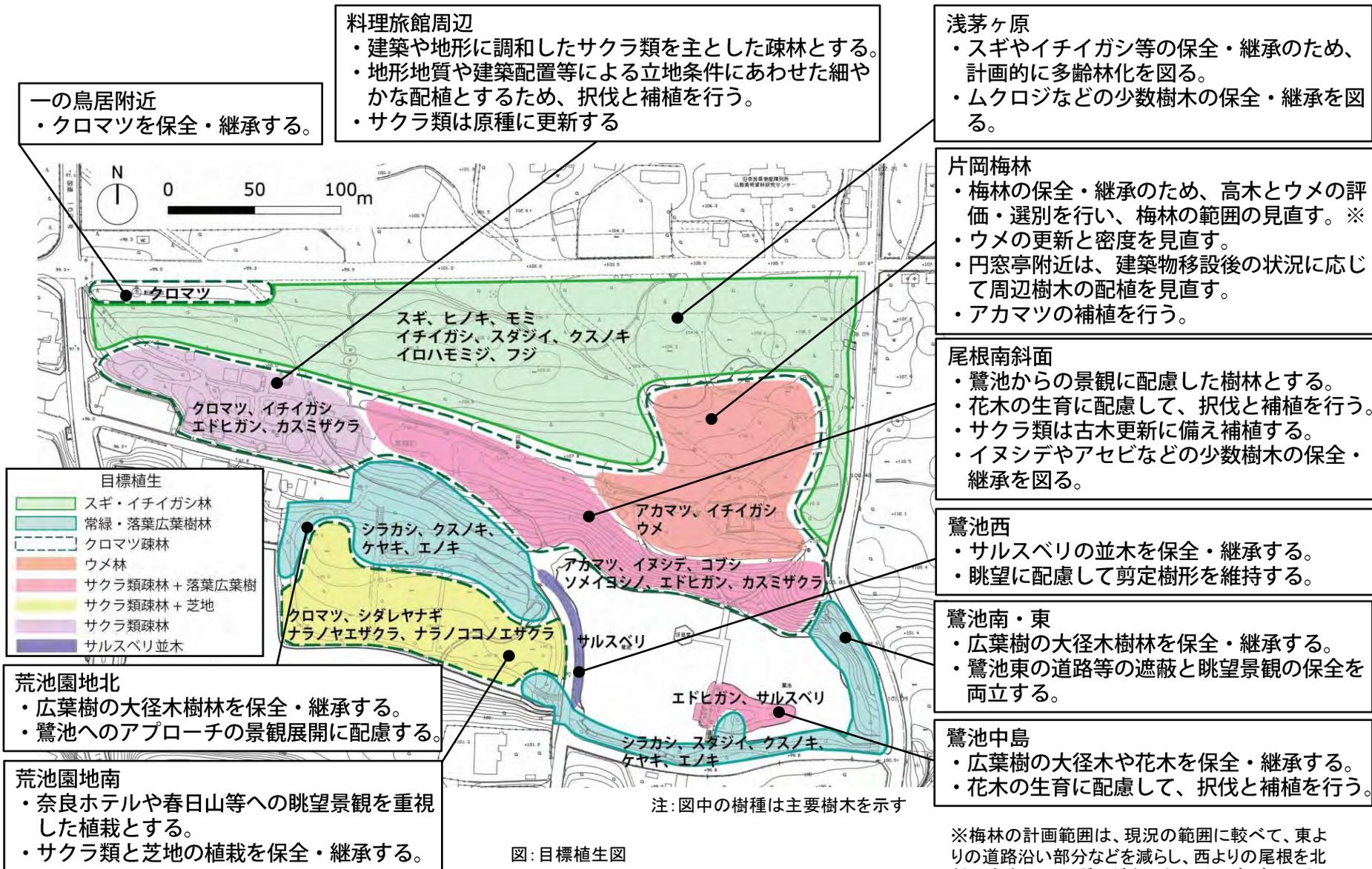
- ・春日大社の境内地と一体的な参道沿いの植生・景観を保全・継承する。
- ・鷺池一带と周辺地の地形や芝地、水面、浮見堂等によって構成される眺望景観を保存・継承する。



図：計画方針図

4. 植栽計画

(3) 計画目標



4. 植栽計画

(4) 具体的な対策

1) 花木の配植

代表的な花木の配植

前項の計画目標に基づいて、「代表的な花木」を取り出して図化すると下図のとおりとなる。

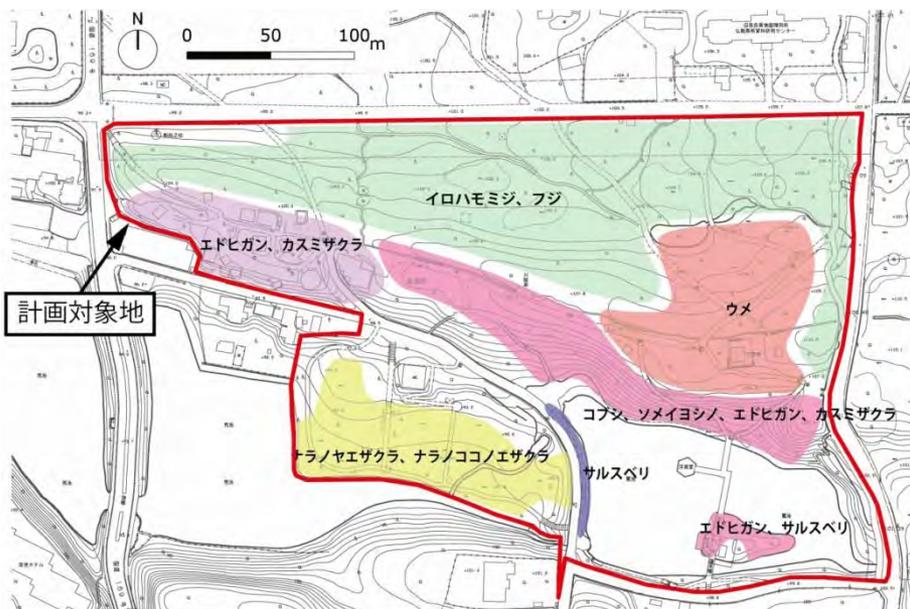


図: 代表的な花木の配植

代表的な花木等の開花期

樹名	開花期	備考
ウメ	2月中旬～3月中旬	
コブシ	3月中旬～下旬	
エドヒガン	3月下旬	原種
ソメイヨシノ	4月初旬	園芸種
ナラノココノエザクラ	4月中旬	園芸種
ナラノヤエザクラ	4月下旬	園芸種、カスミザクラの変異種
カスミザクラ		原種、ヤマザクラに似るがやや高地に分布
フジ	5月初旬	
サルスベリ	7月下旬～8月	
イロハモミジ	11月	紅葉

※上記花木は全て奈良公園に分布している。

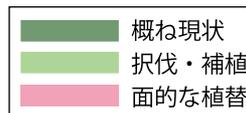
2) 当面の整備内容

当面の整備内容

計画目標の実現に向けた当面の整備は、来年度以降に行う実施計画によって詳細に検討が進められる。ここでは、現時点の大きな問題を整備対象にした場合の整備内容を取りまとめた。



図: 当面の整備内容(想定)



4. 植栽計画

(4) 具体的な対策(案)

3) 多齡林化のイメージ

多齡林化

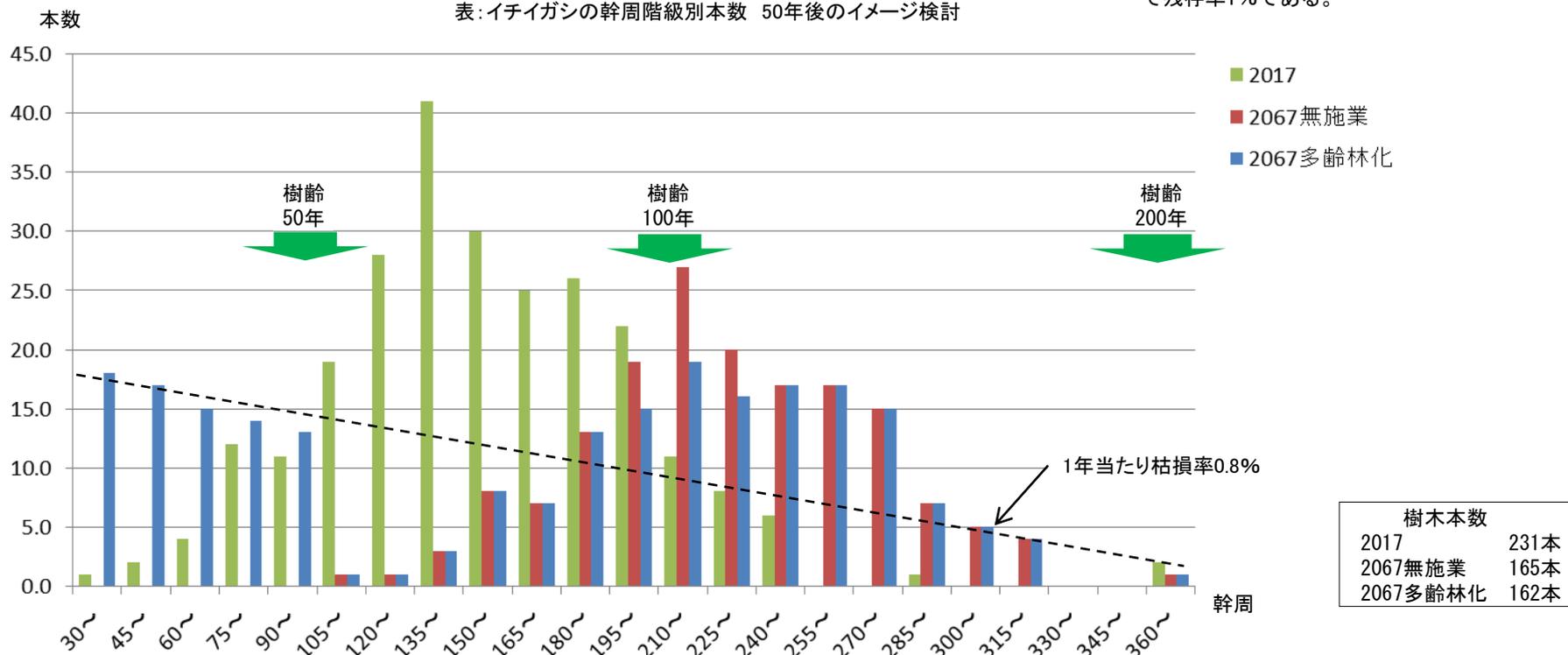
多齡林化は、計画的に多様な樹齡の樹木が存在する樹林に轉換していくことをめざす。本計画対象地では、浅茅ヶ原のイチイガシ、スギが対象となる。シカの採餌のため天然更新や苗木植栽が難しいことから、樹高3m以上の若木の植栽を行う。

下のグラフは、イチイガシについて、2017年の現況に対し、何も行わない無施業の50年後と、今後多齡林化の施業をした50年後を比較したグラフである。多齡林化の施業内容は以下のとおりである。

- ・現在各階級で20本を越える場合に20~30%を伐採する。
- ・今後10年間毎に18本を植栽する。

- ※1 2017年データ出典：奈良公園樹木管理台帳（2017）
- ※2 2067年の推計条件：
 - 幹周生長率 1年当たり1.5cm
 - 枯損率 1年当たり0.8%
 - 枯損率0.8%は50年経過で残存率67%、300年経過で残存率1%である。

表：イチイガシの幹周階級別本数 50年後のイメージ検討



植栽計画のあらすじ

歴史的経緯

春日大社旧境内地

明治中期以降の公園整備

植栽・景観 の特徴

- ・境内地との一体性
- ・春日大社の参道景観
- ・スギ、イチイガシ、大径木

- ・鷺池や芝地の拡がり
- ・奈良ホテルや高円山、御蓋山への眺望景観
- ・花木類、ケヤキなどの落葉広葉樹

連続した景観が形成され、公園として一体的に利用されている

まとめ

ゾーン区分
課題

参道景観ゾーン

- ・将来の世代交代
- ・マツ枯れ、ナラ枯れ・台風

尾根ゾーン

- ・花木の生育不良
- ・建築物と樹木の不調和

谷ゾーン

- ・眺望景観等の阻害
- ・花木の生育不良

課題の主要因：樹木の増加と生長

植栽計画

計画方針：旧境内地と整備された園地の特徴を活かしつつ植栽・景観を保全・継承する。

ゾーンの方針

春日大社境内地と一体となつて、参道景観を形成する。

尾根の立地を活かした花木を演出する。

近景から遠景に至る眺望景観を演出する。

具体的な対策

保全・継承、多齡林化

択伐・補植、面的な植替

択伐・補植、保全・継承